

# フジタ厚木研修センター宿泊施設「志」

FUJITA ATUGIKENSYU CENTER SYUKUHAKUSISSETU「KOKOROZASHI」

No. 21-029-2022作成  
新築  
集合住宅（寄宿舎）

発注者	株式会社フジタ（合同会社AKC）	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社フジタ FUJITA Corporation	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社フジタ 横浜支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## フジタの次世代を担う人財育成のための宿泊研修施設

次世代を築くプラットフォームとして

本計画は社内研修に利用する社員用の宿泊施設（寄宿舎）の計画である。本施設では、研修受講者の利便性向上を図るため、社内研修の拠点となる当社技術センター（神奈川県厚木市）の敷地内に隣接して計画している。計画にあたっては、宿泊施設としての基本機能を満足することはもちろん、施設利用者の快適性や環境への配慮として、寄宿舎としては日本初のLEED認証・WELL認証※のゴールドランク取得に加え、ZEH-M Readyの取得等さまざまな認証取得にも取り組んでいる。また、研修受講者に学びの場を提供するため、自社物件という特性を活かし、新規開発中の技術の一部を取り入れるほか、今後の当社の礎を築くため、IoTを駆使した次世代作業所運営を行なう等、社内一丸となり数多くの課題に取り組んだ。

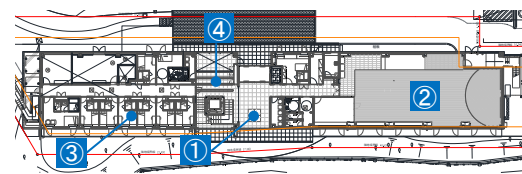
※）WELL認証は2023年3月取得見込み



施設外観

### 自社開発技術の導入と学びの機会の創出

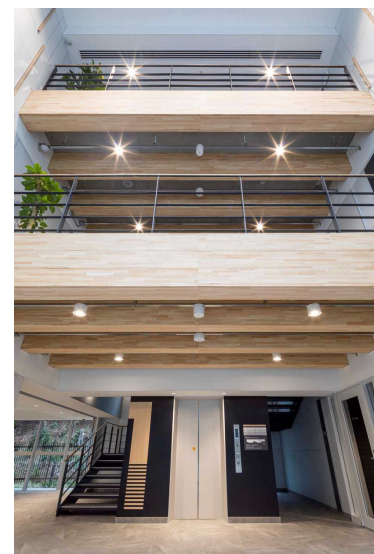
本施設には新規技術開発の一環として、配力筋に炭素繊維を利用したデッキスラブ、不燃発泡ボードによる新素材設備ダクト、放射冷暖房によるパネルエアコン（眠リッチ®）や、炭素繊維で補強した木造梁等を導入している。これらの技術は、直接見えるように展示するとともに説明パネルに設けられたQRコードにより詳細を学ぶことができる。これにより、施設での滞在を通して研修受講者が学べる機会を提供している。



1階フロアプラン



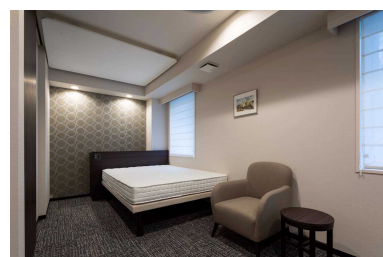
①デッキスラブ



④木造梁



QRコード ②新素材設備ダクト

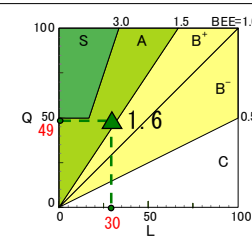


③放射冷暖房パネルエアコン

建物データ	所在地	神奈川県厚木市
	竣工年	2022年
	敷地面積	2,998㎡
	延床面積	2,179㎡
	構造	鉄骨造
	階数	地上3階

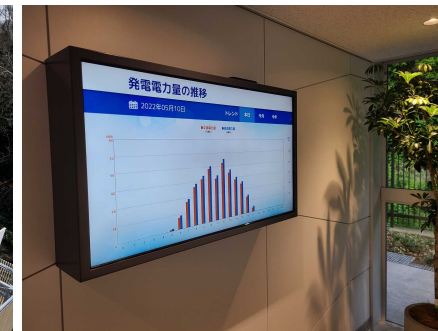
省エネルギー性能	ERR (CASBEE準拠)	52 %
	LCCO <sub>2</sub> 削減	33 %

CASBEE評価	Aランク
	BEE=1.6
	2016年度版自治体提出



### 「高」環境づくり」を体現する快適性と環境配慮

WELL・LEED認証におけるゴールドランクの取得、ZEH-M Readyの取得にあたり、宿泊室全室において節水機器採用に加え中水利用による上水使用率の削減を実施している。さらに、人感センサーによる電気使用量の削減、太陽光発電パネルによる創エネ、断熱・気密性強化による外皮性能の向上、間仕切り壁の遮音性確保など建築・設備の両面から対策を講じた。また、感染症対策として自動検温システムやエアシャワーを整備するなど、高水準な環境配慮と施設の快適性を実現することで当社のスローガンである「高」環境づくり」を体現する施設を目指した。



認証取得に向けた取り組みの一例（太陽光発電）



各種認証（ZEH-M, LEED, WELL）

### 木材の積極的活用

脱炭素の観点から屋内で使用される木製梁の他、新築にあたり発生した間伐材（サクラ）を活用した客室サインや含水率を抑え寸法安定性を高めた木製ルーバー、天然木と再生木を組み合わせたウッドデッキを計画することで二酸化炭素の固定化に寄与している。また、ウッドデッキからは敷地内に残る桜並木を一望することができるため、利用者の憩いの場として整備することでアメニティ向上にも配慮している。



発生間伐材による客室サインとウッドデッキ

### 生物多様性に配慮した植栽計画

外構においては、周辺環境の保全や生物多様性に配慮し、外来種を用いない植栽計画としている。使用している各樹種についてはQRコード付きの説明プレートを設置することで、植栽について学べる場を提供している。また、WELLに準じた健康増進を図るため、サインにより積極的な屋外利用を促している。



外構緑化と健康増進サイン

### 建設段階における環境配慮とIoTによる作業所運営

本計画では完成した建物のみならず、建設段階においても重機へのGTL燃料採用や、仮設電力での再エネ利用によりCO2排出量の削減を行った。また、建設時の土砂流出防止、廃棄物管理、空気質管理等を徹底し、LEEDゴールド基準を満たす施工管理を行った。作業所運営においては、IoT導入により職員の働き方改革を推進した。



建設段階における取り組み

#### 設計担当者

統括：大館智昭／建築：増田紀彰、田谷昭彦、白井寛弥、中右澄玲／構造：大倉直樹、中村直樹、立野文／設備：杉本雄太郎（機械）、鬼頭秀明（電気）／インテリア：大野陽介、柴田麻衣子

#### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2.2 ひび割れ防止コンクリート（フィットクリート）、太陽光発電によるBCP対応、地震被災度推定システム
- Q3.1 在来種による外構緑化
- LR1.1 LEED基準の気密性能、高断熱
- LR1.3 LED照明の採用、センサー制御、エコキュート、放射冷暖房パネルエアコン（眠リッチ）
- LR2.1 節水機器、便所洗浄水での雨水利用
- LR2.2 発生間伐材の再利用
- LR3.3 外構照明の光害対策、建設発生土砂の流出防止、敷地内雨水の流出抑制

サステナブル建築事例集／一般社団法人日本建設業連合会  
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します